

# IAATO コウテイペンギン生息地 訪問ガイドライン

南極研究科学委員会 (SCAR) 南極野生動物健康ワーキンググループは、2023-2024年と2024-2025年の南半球の夏季期間中、南極および亜南極地域に高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) が持ち込まれる危険性が高くなることを警告しています。世界的に、このウイルスによる野鳥およびアザランの大量死が発生しています。野生生物に関わる方々やその近くで働く方々は、HPAIが持ち込まれることを想定し、可能な限り強力な防疫対策を維持する必要があります。何らかの大量死を発見した場合は、適切な手続きに従い、自社ツアーチームを通じてIAATOに報告してください。

## はじめに

コウテイペンギンは、気候変動によって生息地が失われる脅威にさらされているとみなされています<sup>1</sup>。このガイドラインは、レクリエーション目的の訪問によるコウテイペンギンへの干渉を最小限に抑え、短期的・長期的に動物の日常的・季節的な通常の活動パターンを守ることによって、ペンギンの個体数への有害な影響を回避することを目的としています。

衣服、履物、器具については、常に適切な防疫対策の手順に従ってください。現在、高病原性鳥インフルエンザが持ち込まれるリスクを低減するため、防疫対策の手順が強化されています。

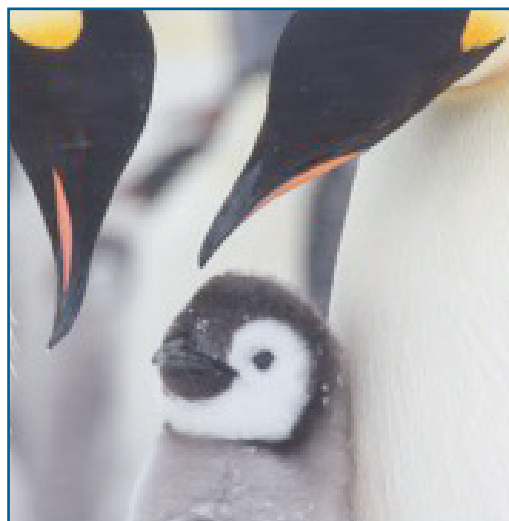
## 可能性のある影響

現在、ペンギン生息地への訪問が適切に管理されている限り、それによる悪影響は確認されていません。しかし、以下に挙げる要因により、回避すべき影響が生じる可能性があります。

- 外来種および病原体・疾病の偶発的な持ち込み
- 航空機の着陸または飛行活動
- スノーモービルなどの陸上車両
- 小型ボートの使用を含む船舶活動
- 訪問者および訪問者に関連する活動 (騒音、振動、生息地に及ぼす変化、地域の気象環境、衝突の危険性など) によって、鳥類またはその他の野生動物が受ける直接的な干渉

コウテイペンギンが干渉に対して特に敏感になるのは、ひなの換羽時期 (11月下旬～12月下旬)、および成鳥の換羽時期 (1月中旬～2月中旬) の期間です。コウテイペンギンの生息地の拡がり、その時々状況によって異なります。通常、ひなは11月頃からクレイシと呼ばれるひなだけが集まる保育所において、密な群れの中にはいません。小さなグループになって広範囲に散らばっていることがあります。嵐や雪の天候時には、暖をとるために身を寄せ合います。

特に注意を払う必要があるのは、ペンギンが「ペンギンハイウェイ」を使って海と生息地の間を行き来するエリアです。



## コウテイペンギン観察のための一般的なルール

- ヘリコプターまたは小型ボートの着陸地点、陸上車両、スノーモービル、貯蔵所、緊急時用倉庫、キャンプは、生息地からできるだけ離れている必要があります。0.75海里 (約1km) 以上の距離をとってください。
- 生息地の場所が変わっている可能性が高いため、着陸地点は季節ごとに見直す必要があります。
- 生息地、または生息地への経路に食べ物を持ち込まないでください。
- ゴミは決して廃棄せず、必ず持ち帰ってください。
- 液体および固形の排泄物はすべて持ち帰ってください。船舶を使用するツアーの場合、訪問者およびガイドはトイレを使用する際には船に戻る必要があります。内陸でのツアーを行う事業者は、キャンプでは携帯トイレを使用できます。船舶運航会社による携帯トイレの提供は、緊急時に限り使用が認められています。

<sup>1</sup> ATCM XLIV WP 35. コウテイペンギンの特別保護種行動計画の策定に向けて設立されたCEPインターセッショナルコンタクトグループの報告書

- 生息地、または生息地への経路では、絶対に排尿・排便をしないでください。
- 1つの生息地に一度に上陸できる訪問者数は、ガイドとリーダーを除き100名以下です。
- 20名未満のグループには、少なくとも2人のガイドをつけてください。それ以上の人数のグループについては、15名の訪問者に対して少なくとも1人のガイドをつけてください。
- 常にゆっくりと注意深く歩き、念のためペンギンから5mの距離を保ってください。野生動物の行動に変化が見られた場合は、それ以上の距離をとってください。常に動物に道を譲りましょう。
- ペンギンハイウェイ（ペンギンが海と生息地の間を行き来するエリア）からは、15m離れてください。
- このエリアは、生息地の氷縁または外洋側にあることもありますし、鳥がタイドクラックを使って海に入る場合は、陸側にあることもあります。
- 訪問者の経路とペンギンの群れの経路を、可能な限り分離するようにしてください。
- ペンギンが往来するエリアを横切る必要がある場合は、訪問者は広がらず、固まって移動するようにします。
- 移動中のペンギンが約15m先にいる場合、ペンギンが進みたい方向を選べるよう訪問者は停止してください。
- コウテイペンギン（特にひな）は生来好奇心旺盛で、人に近づいてくることがあります。
  - 安全なことを確認したうえで、必要最小限の距離（5m以上）を保ち、ゆっくりと後ずさりできる態勢をとってください。動く前に背後を確認してください。
  - 決して交流を促さないでください。
  - 成鳥またはひなが移動しているときは、その進路に入らないでください。
  - 野生動物には決して触れないでください。
- 呼吸穴にいるヒョウアザラシが訪問者を追いかけることもあるため、注意してください。
- 日光浴をしているアザラシに注意してください。少なくとも5mの距離を保ってください。アザラシを取り囲んだり、母アザラシと子の間、またはアザラシと呼吸穴の間に入ったたりしないでください。

## コウテイペンギン生息地での訪問者のガイド

### i. コウテイペンギン生息地に徒歩で接近する場合

生息地への進入路には旗を立ててください。旗は、ペンギンの群れが定期的によく移動できるように間隔を空けて立ててください。

生息地には複数のペンギンの群れがいるため、生息地への適切な進入ルートに旗を立ててください。

旗を立てられるのは生息地の周辺のみです。旗がペンギンの邪魔になることのないようにしてください。訪問者への十分な説明を徹底してください。ルートではガイドが先導するか、ルートにガイドを常駐させてください。

訪問者が少人数グループで、数日間キャンプしながら生息地を訪問する場合、生息地にガイドが常駐していれば、先導が必要なのは最初だけですむ場合もあります。

ガイドは、15名の訪問者に対して少なくとも1人配置し、現地で常に訪問者と行動を共にする必要があります。



### ii. 動物を動揺させないように常に注意を払う

コウテイペンギンの生息地に近づいたら、動揺した様子を示していないかを観察してください。

以下の予防対策を行ってください。

- ひなのいるコウテイペンギンの生息地から25～30m以内の場所に、訪問者の停止地点を設けてください。すべての訪問者とガイドは、設けられた停止地点に少なくとも5分間留まり、ペンギンの行動を見極めてください。
- ひなに、怯えた反応（繰り返しまたは継続して翼をパタパタさせる行為）がなければ、グループをゆっくりと10～15mほど生息地に近づけます。
- 5～10分おきに、見極めてから近づくことことを繰り返し、徐々に近づきます。
- 継続してペンギンの行動を見極め、動揺している兆候が見られたら、後退します。5m（15フィート）以内には決して近づかないでください。
- コウテイペンギンの生息地を取り囲まないでください。訪問者とガイドの活動は、生息地の片側のみで固まって行い、ペンギンが自由に動き回れるスペースを与えるようにしてください。

### iii. コウテイペンギンが流水や氷の縁にいる場合

訪問者、小型ボート、船舶をすべて、成鳥やひなの一群とは別の側に集め、ペンギンが水に入る準備をしている場所からは少なくとも15mの距離をとってください。

### iv. 立ち入り禁止エリア

ガイドは、危険な場所への立ち入りを制限するため立ち入り禁止エリアを指定することがあります。タイドクラック、アザラシの呼吸穴、薄い海氷、ペンギンが穴や潮の割れ目に行くためのペンギンハイウェイなどがそれにあたります。

## 航空機運航に伴う安全対策と動物への干渉緩和対策

航空機（ヘリコプターを含む）は、2004年南極条約決議2にある「南極にいる鳥の集団近くでの飛行機の運航のためのガイドライン」、IAATOの野外活動マニュアルおよび野生生物に対する意識向上マニュアルに記載された各ガイドラインに従う必要があります。

これらのガイドラインに加え、コウテイペンギン

- 海岸線を直角に横断し、可能であれば、地上2000フィート（約610m）以上の垂直距離と、海岸線から0.25海里（約460m）の水平距離を維持する。
- コウテイペンギンの生息地（ペンギンの主要な移動経路を含む）またはアザラシの上空を飛行しない。
- 生息地へ進入する際には、タイドクラックおよび最も近い氷縁を観察し、着陸地点の安全性を判断する。ペンギンの生息地から可能な限り離れた場所に着陸する。生息地またはアザラシからは、0.75海里（約1km）以上離れていること。
- 生息地およびアザラシへの干渉を極力抑えるために、可能であれば、高い物理的障壁（冰山など）の裏側で、風下を着陸場所を選ぶ。
- 南極フライトインフォメーションマニュアル（AFIM）、基地内航空機操作に関する各マニュアル、関連する海図および地図、野生動物および低空飛行の回避マップに記載されている航空機の飛行高度、優先飛行経路、進入経路に従う。
- 雪上滑走路を検査や圧雪のために往復する回数を、安全な着陸に必要な最小限の回数とする。
- ヘリコプターを運行する場合は、着陸地点に野生動物がいないこと、および安全な着陸操作に従っていることを徹底する。
- エンジン始動と離陸前に、雪上滑走路に野生動物がいないことを確認する。
- IAATOは、コウテイペンギンの生息地での遠隔操作航空機システム（RPAS）の使用を許可していません。

## 船舶運航に伴う動物への干渉緩和対策

船舶は、安全上の理由や、許可または認可された科学的根拠がない限り、沿岸および氷棚付近での定着氷域の航行を回避することが推奨されます。定着氷の端での停泊（すなわち、定着氷の端から約±1隻分の長さの氷端で安全かつ安定した位置を保持している）は、定着氷域の航行とはみなされません。運航者は、環境条件および野生生物の繁殖地に常に適切な配慮をしてください。

## その他の安全の考慮点

- 天候が変化した場合に緊急ベースキャンプの設営が可能な座礁時用緊急設備を用意しておくことは、必須です（特にヘリコプターを運航する場合）。
- 着陸後は直ちにベースキャンプエリアを確認し、海氷が安定していることをチェックする必要があります。
- 天候が急速に変わるため、訪問者グループが広い範囲に分散している場合、重大な問題が起きる可能性があります。
- ガイドは天候と海氷の状況を監視し、状況に応じていつでもキャンプに戻れるようにしておく必要があります。
- 海氷は割れたり、急激に変化したりすることがあるため、常に注意する必要があります。タイドクラックの近くは特に注意してください。



コウテイペンギンの生息地の航空写真



天気の良い日のコウテイペンギンの生息地



天気の悪い日のコウテイペンギンの生息地



コウテイペンギンの生息地での氷河近くのキャンプ地



生息地の上を飛ぶオウトウヅクカモメ



呼吸孔にいるヒョウアザラシ